

5

安全研究所の取り組み

ヒューマンファクターは安全マネジメントの確立に必要な基盤であり、ヒューマンファクターに特化した研究所として2006年6月に安全研究所を設立しました。安全を支える「人」のプラス面、マイナス面、両方について十分に理解するための教育を行うとともに、大学や鉄道総合技術研究所などの社外の研究機関や他鉄道会社などと連携して、ヒューマンエラーが発生しにくい装置や機器の具体化、手順の最適化、お客様の安全（転落・接触）などの研究・調査を進めています。

安全研究所の主な研究テーマ

- ・列車内閉じ込めに遭遇した乗客の心理状態に関する研究
- ・踏切道における高齢歩行者の行動特性に関する研究
- ・駅構内の歩きスマホ防止に向けた研究
- ・列車出発時の車掌の判断に関わる危険感受性の調査
- ・認知コントロールの基礎的検討
- ・騒音下における位置および距離に対する言葉の聞き取りやすさの調査

教材「乗務員のための睡眠ハンドブック ～安全と健康のために～」の発行

2009年に安全研究所が作成した「運転士のための眠気防止ガイドライン」をベースに、新しい知見や、日常生活等で留意すべき事柄などを追加して、「乗務員のための睡眠ハンドブック～安全と健康のために～」を2018年3月に作成しました。

このハンドブックを有効に活用し、乗務員や管理者の睡眠についての理解を深め、乗務員の体調管理や眠気防止、ひいては健康と安全の向上に役立てます。

〈主な内容〉

- ・眠気について考える
- ・眠気・睡眠セルフチェック
- ・あなたの睡眠を振り返ってみましょう
- ・よく眠るための生活習慣
- ・眠気に対する方法等

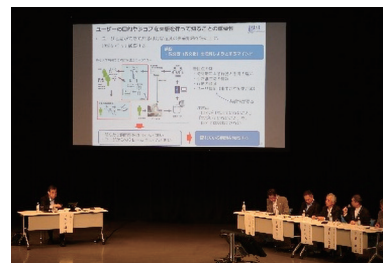


乗務員のための睡眠ハンドブック
～安全と健康のために～

第4回ヒューマンファクターシンポジウムの開催

2017年10月6日にグランフロント大阪ナレッジシアターにおいて、関西鉄道協会の協賛、近畿運輸局のご後援をいただき、関西の鉄軌道社局やJR他社、関係各社の安全統括管理者の方々などを対象にシンポジウムを開催し、約340名に参加いただきました。

- ・基調講演「身体モデルとメンタルモデルの観点からインタフェースを考える」
京都女子大学 教授 山岡 俊樹 氏
- ・パネルディスカッション
「鉄道の安全運行や労働災害を防止するための人と機械のインタフェースについて」



学会などでの発表

安全研究所では研究成果を社内で発表するだけでなく、社会貢献と研究遂行能力の向上の観点から、国内・国外の各種学会での発表（口頭発表、ポスター発表）や、論文の投稿を積極的に行っています。研究所設立以来、各種学会での発表や論文の投稿は260件を数えます。

さらに、鉄道事業者をはじめ、航空・電力・ガス・医療などに加え、警察や消防など、ヒューマンエラーを防ぐために日夜努力しておられる各業界に赴き、ヒューマンファクターの講演を行っており、講演件数は、193件となっています。（2018年3月時点）。

今後も、研究成果レポート「あんけん」の作成・配付、学会への研究成果の発表など、あらゆる機会をとらえて研究成果を積極的に公開していきます。



あんけん
～研究成果レポート～